

北播磨地域 景観資源データベース【西脇市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
ガーデンボランティアしばざくらフルール	西脇市花である「しばざくら」を国道沿いの交差点や観光施設など人の流れの多い市内の要所に植栽して花や緑豊かなまちづくりを目指して活動しているボランティアグループ。しばざくらは、花が織物を敷き詰めたじゅうたんのように見えることから、播州織の産地である西脇市にふさわしい花として市の花になっている。団体は、しばざくらの挿芽講座を行ったり、自主生育した苗の無償提供を行ったりと、地域に親しまれた花をツールに、幅広く美しいまちづくりを推進している。 国道175号沿いの上戸田地先の歩道・植栽帯や西脇病院、日本へそ公園などで花の景観づくりを展開している。第15回「人間サイズのまちづくり賞」まちづくり活動部門 知事賞に受賞(兵庫県)した花のまちづくりの活動である。 (出典:兵庫県HP、西脇市HP)	●		●		西脇市		●
コスモス畑	秋になると休耕田などを中心に、市内の様々な場所にコスモス畑が広がり、行きかう人々の心を癒してくれる。 (出典:西脇市HP)	●				西脇市		
市道西林寺線	市道西林寺線は、西脇市の山裾に立地する西林寺から、西脇市内でも屈指の田園の広がりを持つ津万平野を東西に貫く一直線の道路で、田植えから刈取りまで移りゆく風景が魅力ののどかな田園地帯を貫いている。道路からは、田園の広がり先の山並みを背景とした集落景観や織物の町ならではの織布工場のノコギリ屋根もかつてはみることができた。地域の景観が眺望できる軸線となっている。 (出典:ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、西脇市HP)	●		●		西脇市	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	●
播州織	「播州織(ばんしゅうおり)」は西脇市を代表する地場産業であり、200年以上の歴史と伝統を誇る。江戸時代中期の寛政4年(1792)に比延庄村の宮大工飛田安兵衛(ひだやすべえ)が京都西陣から織物の技術を持ち帰ったのが起源と伝えられている。その後、農家の副業として、西脇市を中心に北播磨地域で生産されたため、当初は「播州縞(ばんしゅうしま)」と呼ばれていたが、明治時代後期に「播州織」と称されるようになった。 播州織の生産量は、昭和62年(1987)の約3億8,800万㎡をピークに減少傾向にあり、平成24年(2012)の生産量は約4,410万㎡と、ピーク時の約11%まで減少している。また、昭和62年当時、約60%超を占めていた輸出品の割合は、平成24年には約13%まで減っている。 現在は、「のこぎり屋根」の工場を改装したギャラリー&ショップである播州織工房館で播州織の新しい魅力を発信している。 (出典:西脇市HP、ハートにぐっと北播磨HP)			●	●	西脇市		
白山	加古川の支流、山田川と門柳川に挟まれた三角地帯の中央に位置し、南山麓には門柳の集落が広がる。標高510mの白山山頂に至るには、「黒田コース」「門柳コース」「喜多・秋谷コース」「前坂コース」などがある。中でも、黒田庄町野外活動協会が整備している「前坂コース」は、緩やかな道が続いており初心者向きになっている。大歳神社(黒田庄町前坂)の鳥居をくぐって階段を登ると、境内の右手には登山口を示す看板が立っている。山頂まではおよそ3.5kmで、ゆっくり歩くと2時間程度。天候がよければ、明石海峡大橋や瀬戸内海を眺めることができる。 (出典:ふるさと兵庫50+8山(神戸新聞総合出版センター発行)、西脇市HP)	●				西脇市黒田庄町黒田	ふるさと兵庫50+8山(神戸新聞)	●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【西脇市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
荘厳寺	<p>荘厳寺は、白雉元年(650)ごろに法道仙人が開基したとされる寺で、本堂では十一面観音菩薩などが拝観できる。</p> <p>この寺は、かつて修験道の寺として繁栄していた。本堂のある境内には捨皮葺の屋根に円筒形の二層目が特徴的な二重塔(多宝塔)があり、その心柱には正徳5年(1715)の墨書を確認できる。また、この多宝塔は県の重要文化財に指定されている。秋には寺周辺は美しい紅葉に包まれる。</p> <p>(出典:西脇市HP、西脇市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)</p>	●	西脇市黒田庄 町黒田1589		●
畑瀬山	<p>「畑瀬山」は、加古川に架かる畑瀬橋の右岸側の西脇市境近くにある小山で、山裾に国道175号が北上している。この山には小さな登山道があり、10分ほど登った山腹からは加古川を中心とした黒田庄町南部の町並みや田園風景、丹波市との境にそびえる白山(高さ510m)や妙見山(同621m)の山並みが広がり、歳月を重ねたふさふさの自然の息づかいが伝わってくる。</p> <p>畑瀬山の周辺は「播磨風土記」には「黒田里」と記され、鎌倉時代以降「黒田庄」と呼ばれた庄園名がそのまま町名になった歴史の重みのある場所。ここからは、町と自然とがひとつになって望みでき、また川と山のおりなす美しい風景を眺望できるポイントとなっている。</p> <p>(出典:ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、西脇市HP)</p>	●	西脇市黒田庄 町津万井	ひょうごランドスケープ100景 (兵庫県)	●
のこぎり屋根	<p>のこぎり屋根は、工場の採光を確保するために工夫された特徴的な屋根形状を指す。工場は生産ラインを覆う上屋として広大な面積が要求された。壁面からの採光のみでは追いつかず、屋根から光を採り入れようとして、必然的にのこぎり屋根が誕生した。直射日光を避け、安定した照度を確保するため、採光窓は一樣に北を向いている。地場産業が生み出した独特の町並みを形成している。</p> <p>(出典:兵庫ふるさとスケッチ(神戸新聞総合出版センター))</p>	●	西脇市黒田庄 町喜多		
緑と水の郷「秋谷」	<p>緑と水の郷「秋谷」は、手軽に散策が楽しめる森林と水辺のある自然空間として、平成12年(2000)に整備された。自然豊かな秋谷に2.7kmの遊歩道や藤棚などもあり、隣接する真はりまフォルクスガーデン黒田庄とともに、季節によってもさまざまな貴重な植物が観察できる。遊歩道からは水を湛えた秋谷池と庵谷池が美しく、展望台は西脇市のまちが見渡せる眺望ポイントになっている。</p> <p>(出典:西脇市HP、西脇市観光協会HP、北はりまハイランド推進協議会HP、ハートにぐっと北播磨HP)</p>	●	西脇市黒田庄 町喜多1518-1		●
西脇市日本のへそ日時計の丘公園フォルクスガーデン	<p>西脇市日本のへそ日時計の丘公園フォルクスガーデンは、様々な植物等で演出したイングリッシュスタイルのガーデンである。寄せ植えコンテナなどのイベントが毎月開かれており、憩いの場、学習の場、そして庭づくりの参考などに利用できる。園内には美しい葉色の樹木を組み合わせたカラーリーフガーデン、小道沿いにハーブなどを植え込んだ香りのガーデン、水生植物や浮葉植物が楽しめるウォーターガーデン、自生植物を保存するネイティブガーデンなどがあり、テーマに沿った美しい景観がつけられている。</p> <p>(出典:西脇市HP、西脇市観光協会HP、北はりまハイランド推進協議会HP、ハートにぐっと北播磨HP)</p>	●	西脇市黒田庄 町喜多1518-1		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【西脇市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
喜多・城山城跡	喜多・城山城跡は、独立丘陵状の地形を利用した山城で、その築造時期は15世紀にさかのぼることが明らかとなっている。城跡は大小8つの郭からなり、山頂部に主郭、その周囲に3つの郭が設けられている。主郭は平面円形に近く、直径が約16mあり、南側半分は岩盤を削り、北側の約半分は埋立てて平坦地をつくっていた。主な出土品には、主郭からの鉄製の急須形容器や中国製天目碗などがある。高級品が含まれており、また京都系のもが含まれることから、当時の都との関わりを持っていた様子が伺える。喜多・城山城跡は、往時の国内外との交流を感じさせる希少な景観資源である。 (出典：喜多・城山城跡 現地説明会資料(兵庫県教育委員会、(公財)兵庫県まちづくり技術センター))	●	西脇市黒田庄 町喜多		●
十三重の石塔	黒田庄町大門には、高さ4.6mの花崗岩製の石塔「十三重の塔」がある。正確な造立年は不明であるが、その造り方から鎌倉時代後期に建立されたと考えられている。 この石塔は、平安時代末期の武将、木曾義仲の供養塔と伝えられており、市の有形文化財に指定されている。しかし、私有地に囲まれ目につきにくい場所にあつたため、地域住民の協力のもと、100mほど北へ移設され、地域のシンボルとしてみることができるようになった。石塔の中には、塔と同じ形をした水晶の塔が納められていると伝えられていたが、移設調査中に塔の中から、高さ2.5cm、重さ4gの水晶の五輪塔が発見された。 (出典：西脇市HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	西脇市黒田庄 町大門306	ひょうごランドス ケープ100景 (兵庫県)	●
門柳川	山裾を流れる門柳川流域には、日時計の丘公園や「緑と水の郷秋谷」などがあり、その清流は、集落に近いものの、ホタルが乱舞する。 6月になるとホタルが飛び交いカジガエルが鳴き、地域の人々はいまはうまではなく、野外活動施設として親しまれている「東はりま日時計の丘公園」を訪れる人も増えている。 毎年、この丘公園のオープン記念日頃の土曜の夜は、JA北はりま特産開発センターと共催で、門柳川の清流に沿ってホタルを観賞しながら歩く「ホタルまつり」が開催される。地元の子供会では、ホタルの餌であるカワニナを集めるなど、ホタルの保護にも取り組んでいる。 門柳川周辺は、この他にもモリアオガエル、ギョウチヨウ、貴重な山野草など豊かな自然環境に恵まれているので、防犯灯設置の際も電線の地下埋設や自然にやさしいナトリウム灯の採用など、環境に配慮した取り組みをすすめている。清流沿いの道は、人里を離れて遊歩しているような気分を満たされるだけでなく、門柳川の沿川では、清流が育てた黒豆大豆の枝豆などが栽培されており、豊かなふさと景観を呈している。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、西脇市HP)	●	西脇市黒田庄 町門柳	ひょうごランドス ケープ100景 (兵庫県)	●
西脇市日本のへそ日時計の丘公園オートキャンプ場	西脇市日本のへそ日時計の丘公園オートキャンプ場は、地域固有の資源である「日本のへそ＝子午線＝時」をテーマとし、四季折々の自然に親しみながら、野外活動等を通じて、より豊かな生活を創造できる憩いの場を提供するために整備されたものである。園内には60区画のオートキャンプサイト、2棟のコテージ、ロッジ、20テーブルのバーベキューサイトが整備されている。緑の景観の中でゆったり時間を過ごせる場となっている。 (出典：西脇市HP、西脇市観光協会HP)	●	西脇市黒田庄 町門柳871-14	ひょうごランドス ケープ100景 (兵庫県)	●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【西脇市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふらさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
こぶ岩	こぶ岩は、通称「小原杉山」の尾根筋の頂上にある、高さ約4m、周囲約10mの岩である。その名の通りコブのような岩だが、岩の片面は何かで削られたように平らになった不思議な岩である。ガンや腫瘍封じのために人々の難儀を自分の身に移して、たくさんのコブにつき、現在のようになつたともいわれている。江戸時代から人々の信仰を集めてきた自然の奇岩が、特徴的な景観をつくっている。 (出典：西脇市HP、西脇市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	西脇市黒田庄 町門柳		●
兵主神社	8世紀中ごろに創建された式内社で、地元では「ひょうすさん」とよばれ、大志郷の氏神として崇拝されている。市内に数ある黒田官兵衛ゆかりの場所の一つでもある。羽柴秀吉が三木城の別所長治を攻めた際に、戦勝祈願のため臣下の黒田官兵衛が灯明田を献納し、拝殿はその奉納金によって改築されたと伝えられている。棟札から天正19年(1591)の改築であることが分かる。 拝殿は茅葺入母屋造の長床式で、安土桃山時代の建築様式をとどめており、全国的にも貴重なものがある。昭和52年(1977)3月に兵庫県の重要文化財に指定された。 秋祭りには、大名行列を模した「レツケイ」、神輿、5台の布団屋台等が練りだすなど、地域の歴史文化景観を代表する神社である。 (出典：西脇市HP、西脇市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	西脇市黒田庄 町岡372-2	ひょうごランドス ケープ100景 (兵庫県)	●
観音堂	岡の観音堂は旧街道沿いに位置し、寛政6年(1794)に建立されたもので、傍の大木が一体となって田園風景のなかでひとときわ目を引く。岡の集落からも望むことができ、四季折々の姿が地域の歴史的なランドマークとなっている。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、西脇市HP)		西脇市黒田庄 町岡	ひょうごランドス ケープ100景 (兵庫県)	●
福谷公園	福谷公園は桜の名所であり、春になると福荷神社の赤い鳥居のトンネルが満開の桜に包まれる。また、藤、紫陽花、紅葉等により一年を通じて美しい景観をみせている。近くに福谷池があり、キャンプも楽しめる。県民、市民にも親しまれている四季の花の名所となっている。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、西脇市HP)	●	西脇市黒田庄 町岡	ひょうごランドス ケープ100景 (兵庫県)	●
石上神社	岩上(いわがみ)神社は、近年石上(いそがみ)神社と表記され、その起源は明確ではないが、正暦3年(992)とも永承5年(1050)ともいわれている。天文11年(1542)に現在の地に移されたと伝えられている。現在の本殿は三間社流造で、細部は上比延町の住吉神社本殿とよく似ている。播州網之郡浦村(現在の淡路市浦)の木工、源時定によって17世紀後半に建てられた。境内には、長さ約30m、短径約20m、高さ5mの巨岩が突出しており、古くから信仰の対象となっていたと考えられる。 毎年秋祭りの本宮の夜に、県指定無形民俗文化財「なまざさおさえ神事」が行われている。石上神社の氏子4町の中でも野村町と板波町の本堂のみが行う。神事の由来は、天文11年(1542)に石上神社を現在の地に移す前、神殿に奉納されていた白鞘の宝剣が盗まれ、野村・板波両村で探して回収したところ、刀はなく大鯨がいたことから、神罰をおそれ、宝剣を探すふりを神事として行うようになったこととされる。地域の文化景観を今に継承している。 (出典：ひょうごの民俗芸能(神戸新聞総合出版センター発行)、西脇市HP、西脇市観光協会HP)	●	西脇市板波町4		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【西脇市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
大日堂の数珠繰り	和和町の高台、田畑に囲まれた木立ちの中にある大日堂。普段、老人達の憩いの場となっていた境内で毎年11月23日午前中に熟年クラブ、町内会の手で数珠送りが継承されている。般若心経を唱えながら住民の手で進められているこの行事は、地域の文化的な習わしを今に伝えている。	●	西脇市和田町		●
西脇市立古窯陶芸館	昭和57年(1982)5月にオープンした古窯陶芸館は、鉄筋コンクリート一部鉄骨造りで、曲面を多用したユニークな建物である。1階では2号窯跡を発掘当時のまま周囲から見学できるほか、陶芸コーナーで陶芸創作や絵付けを楽しむことができる。2階には緑風台窯跡の出土品のほか、周辺の窯跡の出土品を時代順に展示している。また、2階からは、2号窯跡の全容を見ることができ、古窯陶芸館にある緑風台窯跡は、12世紀末ごろ(平安時代末)に陶器を生産していた窯であり、兵庫県の指定の文化財である。窯跡は、茨き口の奥に炎のまわりを良くする分煙柱という設備があるのが特徴で、西日本ではこの緑風台窯跡だけにしか確認されていない。 地域の歴史的な資源を今に伝える場となっている。 (出典:西脇市HP)	●	西脇市野村町 緑風台1813-11		●
寺内古墳群	寺内古墳群は、古墳時代終末期の28基の古墳からなる群集墳であり、多くは横穴式石室墳である。寺内7号墳は、長辺18mの長方形墳丘の方墳である。興味深いのは、最も大きい7号墳が7世紀第2四半期頃に築造された唯一の方墳であったことである。その後は6グループに分かれて小円墳が7世紀末まで造られ、一つの古墳群を形成している。古代の歴史を彷彿とさせる景観資源である。 (出典:古墳が語る播磨(神戸新聞総合出版センター発行 2013.11.30)、広報にしわき(2005.12月号))	●	西脇市寺内519		●
天神池	天神池は水辺に体育館や温水プールのあるスポーツレクリエーションゾーンになっているほか、池に飛来する野鳥の観察小屋なども設けられている。5月には鯉のぼりが池を渡り、季節の風物詩となっている。隣接する道の駅北はりまエコミュニアムでは、西脇市と多可町が取り組む「北はりま田園空間博物館」の有形・無形の地域情報発信するとともに、播州織製品や、金ゴマ、巻き寿司、新鮮野菜や特産品等を販売して、田園のにぎわい景観を示している。 (出典:ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、西脇市HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	西脇市寺内	ひょうごランドスケープ100景 (兵庫県)	●
道の駅北はりまエコミュニアム	道の駅北はりまエコミュニアムでは、西脇市と多可町が取り組む「北はりま田園空間博物館」の有形・無形の地域情報発信するとともに、播州織製品や、金ゴマ、巻き寿司、新鮮野菜や特産品等を販売して、田園のにぎわい景観を示している。 (出典:西脇市HP)	●	西脇市寺内 517-1		○
消防会館	消防会館は、昭和5年(1930)に警鐘台(火の見櫓)が竣工、昭和9年(1934)に西脇消防詰所に区務所を併設し手狭となったことから、昭和11年(1936)に新たに消防庫兼区事務所として西脇町消防屯所が建築され、現在に至る。鉄筋コンクリート造の消防会館は、昭和初期には現代的な建築物であったことが伺える。昭和初期から、消防会館は今と同じ場所が変わらず、地域の防災拠点としての役割を果たしており、地域のシンボルとなっている。 (出典:西脇市HP)	●	西脇市西脇		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【西脇市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
旧来住家住宅	大正7年(1918)、銀行家の来住梅吉氏が自邸として建造。母屋の全体構造は中央に廊下をはさんだ南北2列の間取りで、南列が接客空間、北列が家族空間、東端が台所、風呂などの空間となっている。明治時代以降に発達した中廊下式の平面形であるが、廊下を量販きとしたことで南北空間に連続性がある造りとなっている。母屋座敷床の矢筈張天井のように、見えないところにも凝った手法が用いられている。当時の最高級の用材と高い技術を用いた旧来住家住宅は、数ある民家の中でも特に優れており、現在では用材の入手はもろろん、技術的にも再現することは困難となっている。費を尽くした豪邸には、朝香宮殿下や犬養毅なども滞在した。 県の景観形成重要建造物に指定(平成17年度)されており、周辺の町並み景観の中でもひとときわ目を引く。 (出典:西脇市HP、西脇市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	西脇市西脇 394-1		
蓬萊橋	郷土資料館所蔵「永代橋寄附帳」には、天保9年(1838)に永代橋の架橋が議決されたこととある。架橋に際しては「播丹往来之道筋」であったことから、近隣の村々のみならず、京都や徳島、三重などからも寄附が集められた。永代橋は幅が2尺4寸(72cm)、厚さが3寸5分(13cm)あり、当時としては立派なものだったが、その後も洪水のたびに流され再建されたようだ。 明治15年(1882)12月には幅9尺(2m70cm)の欄干付きの橋となり、初めて「蓬萊橋」と称されるようになった。その後、昭和4年(1929)3月に鉄筋コンクリートの橋に生まれ変わり、現在では市内最古の鉄筋コンクリート橋となっている。 (出典:西脇市HP)	●	西脇市西脇		●
西脇市郷土資料館	「郷土の織物とくらしの資料館」をテーマに昭和59年にオープン。郷土史料の収集保管、郷土史や文化財に関する調査・研究・展示を行っている。 館内には「播州織の歩み」コーナーがある。昔の織機や製品などが展示されており、播州織の歴史と伝統を知ることができる。 (出典:西脇市HP)		西脇市西脇		
西脇小学校	明治6年(1873)に開校、平成元年(1989)に大改修されたが、木造校舎の良さをそのまま残している。腰折れ屋根を正面に象徴的に配したデザインは、母校の原風景を今に伝えている。「火垂るの墓」の映画ロケにも利用された。木造校舎は昭和12年(1937)に建築されたもので、設計者は内藤克雄。 県の景観形成重要建造物に指定(平成19年度)されており、懐かしい風景を醸し出している。 (出典:兵庫ふるさとスケッチ(神戸新聞総合出版センター)兵庫県HP、西脇市HP)	●	西脇市西脇 656-1		●
西脇情報未来館21	西脇情報未来館21は、旧来住家住宅の敷地内にあり、昭和初期に建てられた洋館を改装した建物である。先染織物「播州織」は、200有余年の伝統を誇る基幹産業であり、ここでは、西脇市の地場産業である播州織の魅力発信している。 店内は木を基調とした床や棚で、暖かい雰囲気にも包まれている。中では彩り豊かな播州織仕立てのカーテンやハンカチ、扇子などが陳列棚を賑わせている。オーダーシャツ(パターンオーダー)の提供も可能で、播州織の風合いの良さをより身近に感じられる。洋館が醸し出す景観がかつての播州織の賑わいを感じさせる。 (出典:西脇市HP、西脇市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	西脇市西脇 394-2		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【西脇市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
童子山公園	童子山公園は、西脇市の市街地の中央に位置する公園である。公園内には総合市民センター・郷土資料館・図書館・資料館などの文化活動の拠点施設が立地している。おまつり広場では、毎年8月に市民拳げのおまつり「へその西脇・織物まつり」が開催されている。春には桜が満開になり、初夏にはしよぶが花盛りを迎え、四季折々の花々が楽しめる憩いの場として市民に親しまれている。また、展望台からは杉原川沿いに広がる市街地が一望できる。 (出典：西脇市HP、西脇市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	● ● ● ● ●	西脇市西脇790		●
播州織工房館	播州織工房館は、「のこぎり屋根」が特徴のギャラリー&ショップで、木造の織物工場を改装・再生し、平成19年(2007)にオープンした施設で、まちの交流拠点として播州織の情報発信を行っている。館内では、播州織で作られた小物などオリジナルグッズの他、播州織の定番ともいえるシャツ、神戸芸術工科大学と地元業者との産学連携プロジェクトで開発された製品など、多数の播州織製品が展示されている。かつての産業景観を今に伝えている。 (出典：西脇市HP、西脇市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	● ● ● ● ●	西脇市西脇452-1		●
血池・あたご池	血池・あたご池の堤から園内の桜2,000本の開花が一望できる。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県))	● ● ● ● ●	西脇市坂本	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	○
西脇公園	北播磨の桜の名所であり、血池・あたご池の堤から園内の桜2,000本の開花が一望できる。市民球場や屋内コートボール場も併設され、市民の憩いの場として親しまれている。 公園の西側にはハイキングコースも整備されている。林道沿いには山桜が植栽され、西脇公園の桜とあわせて見事な景観を見せる。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、西脇市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	● ● ● ● ●	西脇市坂本675-68	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	●
西林寺	西林寺は、白雉2年(651)法道仙人が開いたとされる古刹で、本尊の十一面観音立像は藤原中期の作で手が4本あるという珍しいものである。境内には高浜虚子をはじめ、阿波野青畝(あわのせいほ)らの句碑、富田碎花(とみたさいか)の歌碑などが点在している。 境内の唐子ツバキは樹齢200年以上とされる古木で、例年3月頃に咲く花は濃紅色の一重であるが、おしべが花弁化して八重咲きのように見える。初夏には約10万本のアジサイが咲く「都麻乃郷あじさい園」があり、毎年6月中旬に抹茶を味わいながら花を愛でる風流な「あじさいまつり」が行われる。秋には境内は紅葉で彩られ、野点茶会「照楓会」が開催されるなど、四季折々の美しい花の景観を呈している。 (出典：西脇市HP、西脇市観光協会HP)	● ● ● ● ●	西脇市坂本455	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	●
地蔵一本桜	地蔵一本桜は、郷瀨町の杉原川堤防沿いに立つ桜の木であり、西脇市内で最も早く咲くサクラとして有名である。昔から地域住民に親しまれている。 (出典：西脇市HP)	● ● ● ● ●	西脇市郷瀨町		

※1: ①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2: ●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【西脇市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
経緯度橋	西脇市の「日本のへそ」の起源は大正8年(1919)とされる。多可郡で行われた小学校教師の研修会で、講師として招かれた肥後盛熊氏が「ここには日本の中心に当たる東経135度・北緯35度の交差点がある」と指摘したことに始まる。その後、大正13年(1924)に経緯度交差点標柱が、旧陸軍参謀本部陸地測量部の計測に基づき、交差点の加古川河川敷に建立された。それ以来、市内では「緯度経度」の名がいくつもの施設などに命名されているが、加古川に架かる緯度経度橋もそのひとつである。この橋からは、雄大な加古川の流れと流域市街地の景観が楽しめる視点場となっている。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県))	●	西脇市大垣内、 上比延町	ひょうごランドスケープ100景 (兵庫県)	●
西光寺山	「一に笠形、二に西光寺、三に清水」と呼ばれるほど昔からよく知られた市内最高峰の山である。シダの多い七曲りをひとしきり登ると、御宝塔にあたる石碑の他、石門、こもり室などを目にする事ができる。静かな森の山道を抜けると小さな祠のある山頂に達する。東半分がまなく見渡せ、眼下に広がる田園風景は印象的である。100m下ると露岩に出る。前方が開け雄岡山、その彼方に明石海峡が望まれる。この稜線の斜面一帯に元来は海岸性の植物であるウバメガシ群落(植生北限)が見られる。 (出典：ふるさと兵庫50+8山(神戸新聞総合出版センター発行)、西脇市HP、西脇市観光協会HP)	●	西脇市中畑町	ひょうごの森百選(兵庫県) ふるさと兵庫50+8山(神戸新聞)	●
すみよし桃源郷	すみよし桃源郷は、県立自然公園西光寺山の麓にあり、畑谷川の源に広がる自然豊かな山間の水田を利用した市民農園である。きれいな水と空気によって、良質でおいしい米が育まれている。住吉の町民一丸となって運営に取り組んでおり、農園利用者も予約を受け付けている。周辺には見所が多く、スイレン池が農園の管理棟に隣接してあるほか、県指定文化財の木造薬師如来坐像がある大通寺もあり、歴史の感じられる土地で新たな農地景観が創出されている。 (出典：西脇市観光協会HP、北はりまハイランド推進協議会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	西脇市住吉町 1021		●
畑谷川のホタル	畑谷川はゲンジボタルの生息地である。6月には、ホタルが舞う幻想的な雰囲気にも包まれる。中畑工場公園では「ふるさとホタルまつり」が開催され、多くの人で賑わう。 (出典：西脇市観光協会HP)	●	西脇市中畑町		
コヤノ美術館	コヤノ美術館は、旧国鉄鍛冶屋線建設や西脇商業銀行の立ち上げ等にも尽力したという豪農の藤井滋吉邸を再生した施設である。約3,000㎡の敷地に、明治23年(1890)に建築された主屋、大正期のモダンな洋館、昭和初期の宮大工が建てた離れ、土蔵が並び、明治・大正・昭和の建築物を一堂に見ることができ、平成25年(2013)に国の有形文化財に登録された。また、館内各所には古美術品や古民具など、館長・小谷野運雄の蒐集品を展示している。集落景観のランドマークとなる建造物となっている。 (出典：西脇市HP、西脇市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	西脇市市原町 139		●
旧播州鉄道鍛冶屋線市原駅記念館	市原駅記念館は、大正10年(1921)5月9日に建築され、モダンな洋館風駅舎であった当時の市原駅を復元し、貴重な資料や記録を展示している。播州鉄道は明治43年(1910)11月1日に加古川流域の運輸のため発足(加古川舟運の高瀬舟は300有余年の歴史を閉じた)。そして、平成2年(1990)3月31日をもって、鍛冶屋線(野村～鍛冶屋間13.2km)が60有余年の歴史を閉じたが、旧駅舎は地域の歴史を物語る景観資源となっている。 (出典：西脇市HP、西脇市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	西脇市市原町 233-3		●

※1: ①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2: ●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【西脇市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
西仙寺	本堂に被さるように立つイチョウの大木が印象的な西仙寺は、白雉2年(651)、法道仙人が開基した寺院であり、孝徳天皇の病氣平癒のために建立されたと伝えられている。 永祿年間(1558～)に別所長治が本堂に火を放った時、イチョウの大木が水を吹いて消火したという伝説がある。また、姫路城主の本多忠刻の妻・千姫が田畑を寄進し、わが子の菩提を弔うために信仰を寄せたことなども知られている。兵庫県の重要有形文化財の本堂横には、市の文化財である五輪塔や釈迦三尊板碑なども見ることができ、地域の歴史的な景観を今に伝えている。 (出典:西脇市HP、西脇市観光協会HP)	●	西脇市西田町 88		●
天目一神社	天目一神社は、鍛冶・鞆(ふいご)の祖神であり、朝鮮系の神といわれる天目一命(あまのみひとつのみこと)を祀っている神社である。播磨国風土記の地名伝承から推定すると、新しい技術を持った渡来系の鍛冶集団が、在来の農耕の民の畏敬の中で、次第にこの地に定着したと思われる。近隣には鍛冶との関係の深い地名が多く、鍛冶屋、金蔵山、吹屋場などがある。当神社の12月に行われる鞆(ふいご)祭は、古くから有名で、金物の町三木などからの参拝者が多く、だんじりを繰り出して盛大に行われている。地域の産業の歴史を彷彿とさせる景観資源である。 (出典:兵庫歴史散歩(歴史散歩刊行会発行)、西脇市HP、西脇市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	西脇市大木町 648		●
岡ノ山古墳	岡ノ山古墳は、岡之山山頂に築かれた旧多可郡域では珍しい前方後円墳(全長57.6mの柄鏡式)である。埋葬主体は不明であるが、堅穴式石室をもち、古墳前期(4世紀代)の築造と推定されている。日本へその公園内から徒歩で登ることができ、自然を感じることができる景観資源である。 (出典:西脇市観光協会HP)	●	西脇市上比延 町		
日本へそ公園	「日本のへそ」は、東経135度(子午線)、北緯35度が交差する日本の中心となる点であり、郷土のシンボルとしている。交点は加古川の河川敷に位置し、大正12年(1923)に建立された交点を示す標柱がある。日本へそ公園は、この交点に隣接する岡之山の山麓に建設された。同地は、多可八景の「岡之山公園」として親しまれてきた景勝地である。岡之山は、標高149.7mの独立峰で、その山頂には西脇・多可地域で唯一の前方後円墳が保存され、兵庫県の文化財に指定されている。 園内には、81cmの大型反射望遠鏡を持つ「にしわき経緯度地球科学館(テラ・ドーム)」、西脇市出身の画家横尾忠則氏の作品を展示する「岡之山美術館」、「レストハウス」などが整備され、「宇宙っ子ランド」には、子どもたちに人気の「ジャンボすべり台」や「ふわふわドーム」があり、地域の新しい景観資源となっている。 (出典:ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、西脇市HP、西脇市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	西脇市上比延 町334-2	ひょうごランドスケープ100景 (兵庫県)	●
岡之山美術館	岡之山美術館は、西脇市出身で革新的で独自の世界観を貫く世界的アーティスト横尾忠則さんの作品を収集・展示する美術館として、昭和59(1984)年に開館した。列車風の建物は、世界的建築家、磯崎新氏の設計によるものである。 (出典:西脇市観光協会HP)	●	西脇市上比延 町		○

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【西脇市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふらさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
にしわか経緯度地球科学館 (テラドーム)	にしわか経緯度地球科学館は、経緯度・地球・宇宙をテーマにした科学館である。地球や宇宙の姿を映す映像ホールや、国内最大級の81cm大型反射望遠鏡を備えた天文台などがある。 (出典：西脇市観光協会HP)	●	西脇市上比延町		○
日本のへそ標柱、モニュメント	経緯度交差点標柱は、大正13年(1924)1月に旧陸軍参謀本部陸地測量部の計測に基づき、交差点の加古川河川敷に建立された。 その後、国土地理院の協力で行った「平成の地球大測量」のもと、アメリカが打ち上げた人工衛星の軌道情報を分析し、経緯度を求めるGPS測量により交差点の位置が正確に測量された。その結果、大正時代に測量した「日本のへそ」から、東南約400mの岡之山中腹の位置に「もうひとつのへそ」が発見され、モニュメントが建てられた。 モニュメントのコンセプトデザインは、フランス人建築家パトリック・ベルジェ氏によるもので、槍をイメージした高さ25.3mの4本の柱が四角形に配置されており、柱で囲まれた部分には21.1mの正方形の庭園部分がある。この庭園部分に、4つに区切るチタン製のラインがあり、東経135度と北緯35度の交差点が示されており、緯度経度がおおくの目に見える形で整備されている。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、西脇市HP、西脇市観光協会HP、ハートにくぐっと北播磨HP)	●	西脇市上比延町	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	●
飛田安兵衛顕彰碑	日本へそ公園内に、播州織の始祖である飛田安兵衛(ひだやすべえ)の功績をたたえた「飛田安兵衛顕彰碑」がある。市内を見渡す小高い丘にある顕彰碑は、大正6年(1917)に「播州織同業組合」が安兵衛の没後100年を記念して建立したもので、題字を当時の内務大臣後藤新平が、碑文を農学者の新渡戸稲造が撰文し、新渡戸の教え子で内務省の役人だった前田多聞(のちに文部大臣)が揮毫したものである。その碑文末尾には、「里人は君が黹(いさを)を珍機(うづはた)の然系(よりいと)長く身にまふらむ」と、里人が安兵衛に感謝する気持ち盛り込んだ和歌が刻まれている。 「岡の山まつり」の正式名称は「飛田安兵衛翁顕彰祭」で、京都・西陣から織物の技術を導入し、西脇市の地場産業である播州織の織機をつくり、その礎を築いた地元の宮大工・飛田安兵衛翁の偉業をたたえお祭りとして伝承されている。 (出典：西脇市HP)	●	西脇市上比延町334-2		●
ええまち也野里	ええまち也野里は、西脇市内でも特に過疎化・高齢化が進む比延地区において、「人つながらり未来へつなげる比也野里づくり」をテーマとして、地域の活性化に取り組み団体である、10年先を見据えて策定したまちづくり計画に従い、移動販売車による、地域の見守りを兼ねた惣菜や日用品等の移動販売等を実施。また、地域の特産品である高嶋たけのこを守るため、竹林の整備やオナーナー制度の導入にも取り組み、自主・自立のまちづくりを実践している。 第17回「人間サイズのまちづくり賞」まちづくり活動部門 奨励賞 受賞 (出典：兵庫県HP)	●	西脇市(比延地区)		

※1: ①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
※2: ●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【西脇市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
ガーデンボランテア 夢うさぎ	ガーデンボランテア花うさぎは、野間川と並行する県道沿いの花壇等でアドプト制度による管理を行う団体で、地区全戸、市内小学校等への花苗の配給、さし芽の実習、また河川公園の整備事業への参画等、景観向上や地域交流とともに、行政と協働した活動を推進している。 第13回「人間サイズのまちづくり賞」花と緑のまちづくり部門 奨励賞に受賞(兵庫県)し、花の景観づくりに寄与している。 (出典:兵庫県HP、西脇市HP)	●	西脇市(芳田地区)		●
西脇であいの里	西脇であいの里の里山林は、尾根部のアカマツ林、中腹のコナラ林、谷部のスギ・ヒノキ林からなっている。アカマツ林では様々な種類のツツジが見られる。花木や草花、昆虫など、多くの動植物が生育しており、自然界で生活している様々な生き物に出会え、楽しみながら自然とふれあうことができる。 里山林内には、休憩所(あずまや)やハイキングコースがあり、尾根の散策路からは西脇馬事公苑を展望することができる。木谷山キャンプ場の近くには、タラノキ・クサヤチゴ群集が見られるが、これはコナラ林を伐採した後再生した森であり、かつてはここで新やキノコなどを採取したようである。出会ふれあい農園では、秋には栗狩りが楽しめるなど、西脇市の里山景観を楽しめる。 (出典:里山の自然を学ぼう～兵庫の里山探訪ガイド～(社)兵庫県森と緑の公社発行)、西脇市HP、西脇市観光協会HP、北はりまハイランド推進協議会)	●	西脇市合山町	ひょうごの森百選(兵庫県)	●
六所神社	六所神社の創祀は不明であるが、慶長年間(1596～1615)には池田輝政が崇敬し、その後、浅野内匠頭の領地となって浅野家の崇敬もあった。現在の本殿は、文政4年(1821)の建立と考えられ、規模の大きな三間社流造となっている。 境内には、西脇市の文化財に指定されている樹齢300年以上のフジの大木がある。枝は地上5m付近で大きく2本に分かれ、イチヨウとケヤキを支柱にして40m以上にのびており、5月上旬には約40cmの見事な花房をつける。 また、本殿東側の薬師堂境内には鎌倉時代中期の弘安8年(1285)造立の県内最古の石造宝篋印塔があり、市指定の文化財である。花と歴史文化の景観を今に伝えている。 (出典:西脇市HP、西脇市観光協会HP)	●	西脇市明楽寺町1014		●
きつね塚古墳	きつね塚古墳は、古墳時代後期の7世紀末～8世紀初頭、丘陵斜面に築造された小豪族の墓といわれている。直径11m、高さ2.5mほどの円墳であり、全長7.9mの片袖式の横穴式石室をもち、中には6石からなる組合せ式の冢型石棺(長さ1.67m、高さ幅共に0.81m)がある。横穴式石室内には流紋岩質凝灰岩製の組立式冢形石棺が収められている。石棺の蓋石は頂上の平坦面の幅が広く、縄掛け突起も無いため冢型石棺の最終段階に属するものと推察される。地元住民によって発掘されたときには、棺内には2体の人骨と副葬品が発見されている。古代の歴史を今に伝える景観資源である。 (出典:西脇市HP、西脇市観光協会HP、ハートにぐつと北播磨HP)	●	西脇市明楽寺町14		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【西脇市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
長明寺	<p>長明寺は、白雉2年(651)に法道仙人が開基したと伝わる古刹である。円心に始まり四代続いた名門赤松惣領家が断絶した嘉吉の乱(1441)で本堂は焼失したが、宝光院、宝仙院、仲正院や坊屋敷跡に往時を偲ぶことができる。</p> <p>境内には、平家物語に鶴(ぬえ)と呼ばれる妖怪退治で登場する平安時代末期の武将で歌人、源三位(げんさんみ)頼政公の墓碑や鶴退治を再現したブロンズ像がある。また、歌人である源頼政公にちなんで歌碑の道が作られるなど、公のゆかりの地として有名である。毎年4月29日には頼政まつりが行われ、弓矢の演舞や詩吟などが行われる。</p> <p>境内山林には、文政7年(1824)に四国八十八箇所が開創され、瀬戸内海や満濃池になぞらえて池を配し、山あり谷あり、小川のほとりの断崖には磨崖仏も彫られ、変化に富んだ景勝のコースとなっている。落ち着いた佇まいの中、平安から伝わる悠久の歴史を感じさせる景観を有する寺院である。</p> <p>(出典：西脇市HP、西脇市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)</p>	●	西脇市高松町 600		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。